

min とし、記録方式として photoscan を用いた。原発性アルドステロン症の3例に本法を試み、1例にはかなりはっきりした所見を得ることができたが他の2例では腺腫像を見出することはできなかった。また副腎過形成による再発と思われるクッシング症候群の1例でも明らかな像を得ることはできなかった。

今後は前処置としての KI の投与方法、¹³¹I-19-iodocholesterol の投与量、さらには steroid 投与の本法に及ぼす影響などについて検討したい。

質問 佐々木常雄

(名古屋大学 放射線科)

1. 前処置—ヨードカリの投与法

2. シンチグラム読影上の問題点

追加 鈴木 豊 (金沢大学 核医学科)

1. 副腎スキャンの際は、同一体位で腎スキャンを併用することが位置を推定するのに役立つ。

2. 右副腎を目的とする時には、肝、胆嚢の activity を常に鑑別する必要がある。

7. ^{99m}Tc ピロリン酸による骨スキャン

鈴木 豊 久田 欣一

(金沢大学 核医学科)

安東 醇

(金沢大学 医療技術短大)

骨スキャン用に開発された ^{99m}Tc ピロリン酸キットが臨床的に役立つか否かを各種骨疾患について検討した。5 mCi の ^{99m}Tc ピロリン酸を静注してから、2~6時間後にアンガーカメラでシンチフォトを撮影した。本キットを使用した32例全例で満足すべき骨イメージが得られた。X線写真で病変を検出できない早期の転移性骨腫瘍を本検査法によって検出可能なことを症例を供覧しながら説明した。

^{99m}Tc ピロリン酸の骨への集積メカニズムの詳細は不明であるが、他の骨スキャン用 RI 同様、hydroxyapatite の一部として骨に取込まれると考えられる。それゆえ、⁸⁵Sr, ^{87m}Sr による骨スキャ

ンに対する診断基準が、^{99m}Tc ピロリン酸による骨スキャンに対してもあてはまるものと考えられる。

悪性腫瘍の骨転移の有無を診断する検査として、骨スキャンがX線写真に優ることは理論の上でも実際にでもよく知られた事実である。しかし、今まで使用してきた骨スキャン用 RI には各種の制約があり、わが国では、骨スキャンが臨床に使われる機会が少なかった。この点、^{99m}Tc ピロリン酸をはじめとする、^{99m}Tc リン酸化合物の出現で、骨スキャンの臨床応用は急速に増加するであろう。

質問 金子 昌生

(名古屋大学分院 放射線科)

^{99m}Tc ピロリン酸による骨シンチスキャンにて腎臓のよく出ていた例がありましたが、注射後どの位時間がたってからのものでしょうか。

追加 金子 昌生

(名古屋大学分院 放射線科)

腎が描出されるのは orientation を知る目的では役立つと思います。

質問 仙田 宏平 (岐阜大学 放射線科)

pyrophosphate の分子量はどのくらいでしょうか。

回答 鈴木 豊 (金沢大学 核医学科)

1. 注射後2時間のシンチフォトです。

2. 分子量は446です。

8. ^{99m}Tc-Sn-Polyphosphate による骨シンチグラフィー

○仙田 宏平 今枝 孟義

(岐阜大学 放射線科)

1971年 Subramanian らによって ^{99m}Tc をラベルした新しい骨シンチグラム用 RI が開発され、これは最近 NEN より ^{99m}Tc stannous polyphosphate (以下、^{99m}Tc Polyp) kit として市販されるに至っている。この kit を用い種々の症例に対し骨シンチグラフィーを行なった結果、骨病変の